

事業所名		プロッサムジュニア 小田原鴨宮教室（児童発達支援）		支援プログラム		作成日		2025 年		1 月		6 日	
法人（事業所）理念				えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」				営業時間		平日：9時30分から17時 土曜・学校休業日：9時30分から16時			
支援方針				・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。				送迎実施の有無		なし			
				ねらい						具体的な活動や支援内容			
健康・生活				(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得				来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスをしています。） 【共通】 ・水筒やお弁当、筆箱やプリント類をロッカーや所定の場所に入れるだけでなく、使用後に元の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・ランドセルの中を確認し、プリント類が整理整頓されていない場合は一箱に連絡袋に片づけることを習慣化する。					
運動・感覚				(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用				体幹などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指すします。サーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。色や形の異なるブロックや絵などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。様々な言葉や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。 【共通】 ・バンスストーンやトランポリン、バンスボールなどを使ってバンス感覚や体幹を鍛える。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にバンスクッションを置いて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼ってつけた箇所を探ったり、シールを剥がすなどの活動を行う。 ・集団療育では制作を通じた微細運動、しっぽ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。					
本人支援 認知・行動				(a) 感覚や認知の活用 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 (d) 数量、大小、色等の習得 (e) 認知の偏りへの対応 (f) 行動障害への予防及び対応				買い物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 【共通】 ・感情のコントロールができるように順番や交換、「買して」と言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・一対一で練習することで、「買して」と伝えたら必ず買ってもらえる環境や少し待つ経験が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせる。先の見通しを立てて順番を待つ等のスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。					
言語 コミュニケーション				(a) 言語の形成と活用 (b) 受容言語と表出言語の支援 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 (e) 読み書き能力の向上のための支援 (f) コミュニケーション機能の活用				お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通して人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際にものを見たり触れたりしながらこぼしの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくこぼしを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくります。また、「買して」「いっしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 【児童発達支援】 ・本児の興味、関心のある好きな活動やおもちゃを用意して発声しやすくなる環境を整え、職員がモデルを示すことで発話を促す。 ・集団活動を通して他者に対して自身の要求を伝えることが出来るよう、簡単なハンドサインや「買して」「ちょうだい」「いれて」などの言語表出をする環境を設ける。 【放課後等サービス】 ・個別療育を通して様々な気持ちの理解や自分の気持ちの表出方法を職員と一緒に考える環境を作り、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して他児と関わる楽しさを知り、適切な言葉遣いや相手に伝わる話し方を習得していく。					
人間関係 社会性				(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 (b) 模倣行動の支援 (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 (d) 一人遊びから協同遊びへの支援 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 (f) 集団への参加への支援				事前に視覚的な手掛かりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通して、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるように、職員がモデルを示します。グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動やこぼしのモデルを示します。 【児童発達支援】 ・職員や他児との挨拶やハイタッチを行うことにより、視線を合わせて聞く姿勢をもつ。 ・また集団活動を行う上で、職員や他児の模倣を通して他者に興味や関わりを持ち、人間関係の地盤を構築する。 【放課後等サービス】 ・タイマーを使用して始まりの時間、終わりの時間等の時間の意識を持つ。集団療育や個別療育などの一斉指示を通して先を見据えた行動を行い、相手の気持ちを尊重した行動を取ると共にその場面に応じた行動が出来るよう促し、習慣化する。					
家族支援				・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を送迎時(お迎え時)や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。		移行支援		・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校(保育園・幼稚園)への送迎時、先生と学校(園)での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。					
地域支援・地域連携				・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面で関わり方や、困りごとに関する提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。		職員の質の向上		プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児発管ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施					
主な行事等				・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動									